

みみセンターだより

東北地方太平洋沖地震が発生！！

3月11日(金)14時46分頃、三陸沖を震源とするM9.0の地震が起きました。宮城県北部で震度7を観測、県内では最大震度5強を観測しました。また、地震後の津波の被害は甚大で、岩手県・宮城県・福島県を始め、茨城県・千葉県などの首都圏も含めた広範囲に渡っています。また、県内には地震や原発からの避難者が入ってきています。

今回の震災では「緊急時の情報源がいかにか『音』頼みなのか」を痛感しました。停電した際、主な情報源はラジオでしたし、津波の情報や給水情報なども防災無線や広報車によるアナウンスでした。手話や要約筆記など「目」からの情報を必要とする聴覚障がい者にとっては、情報がゼロにも等しい状態におかれまして。緊急時において情報の少なさがどんなに不安なことか。また、避難所においても、常に周りの様子を気にして今何が起きているのかを確認していなければならない緊張感、暗闇では手話で話もできない孤独感、聴覚障がい者の被災者は二重の苦労があることを知っていただきたいと思います。

<視聴覚障害者等への避難所等における情報・コミュニケーション支援について>

(H23.3.11 厚労省事務連絡より、聴覚障害者部分を抜粋)

<p>安否の確認 被災地域の要援護者を確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラカードを使用し、避難所及び周辺地区で確認。「(聞こえない人はいませんか?)」など ・手話通訳者、要約筆記者などは腕章等を着用。「(手話できます)」「『耳マーク』の活用など」
<p>ニーズの把握 障害特性に応じた支援内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の程度(聞こえの状態など)や情報取得方法(手話・文字・補聴器など)等を確認し、必要な支援を把握する。
<p>関係者との連携 避難所等における活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、聴覚障害者協会、聴覚障害者情報提供施設、手話通訳者、要約筆記者、保健師等が連携し、ボランティアを効果的に活用する。
<p>避難所の説明 トイレや風呂、配給場所など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアやホワイトボード等を活用し、場所や使用方法、状況の変化などを適切に伝える。
<p>情報の共有 食料・救援物資の配給など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラカードやホワイトボード等を使用し、必要に応じて個別に対応する等、最新の情報を確実に伝える。(悪い例:「1時の放送を聞いて下さい」など)
<p>機材・物品 共用品・消耗品の手配など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ(字幕・手話放送) ・ホワイトボード(設置型、携帯型) ・補聴器用電池 <p style="text-align: right;">等</p>

